

新年のごあいさつ



～創立50周年の年に臨んで～



足羽福祉会 理事長 高村 昌裕

新年明けまして
おめでとうございま

昨年は社会福祉法が改正

され、私たち社会福祉法人の使命として、従来から求められている「社会福祉事業の主たる担い手としての責務（自主的な経営基盤強化、サービスの質向上、事業経営の透明性の確保）」に加え、「地域への公益的な取り組み（日常生活が困難な方への無料又は低額なサービス提供等）」が義務付けられるよう

足羽福祉会では以前より
さまざまな地域福祉活動を
展開してきましたが、P R不
足もありましたので、今回
ホームページの刷新と共に、
皆様にもわかりやすくお伝
えします。またこれからも地
域の皆様のさまざまな困り
ごとにも応えていけるよう
努めてまいります。

さて、今年いよいよ足羽福

になりました。

が地域社会の一員として捉えられる時代に変わっています。ですから、私たち社会

50年の道のりに思いをはせると、さまざまな人の生き様が浮かんできます。当時足

さて、今年いよいよ足羽福祉会は創立50周年を迎えます。昭和42年10月1日に、当時の財団法人北陸陽気園から名称を財団法人足羽学園とし、新たな経営体のもと社会福祉法人化をめざし始めました。

でが障がいの有無にかかわらず、その人らしく安心して暮らせる共生社会の実現』

寄り添ってくれるベテラン職員は、各事業での精神的支柱となっています。50年は本当にたくさんの利用者の方で職員の人生が縦横に織り成された絵巻物のようです。

足羽福祉会を支えてください
さつた多くの方々の思いを受け止め直し、未来への一步につなげる1年となるよう、本年も役職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。何卒皆様のご支援、ご協力のほどお願いいたします。

足羽福祉会を支えてください
さつた多くの方々の思いを受け止め直し、未来への一步につなげる1年となるよう、本年も役職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。何卒皆様のご支援、ご協力のほどお願いいたします。

ておられる方がいます。足羽東保育園を卒園された園児は、今度は保護者になつて園を利用くださり、支えてくれています。地域の方でずっとボランティアで運営を支えてくださつた方もいます。創立当初のことを知つている職員はほとんどいませんが、出会いや別れを乗り越えて、

跡を振り返ると同時に、今後どのように山を登っていくのかを話し合い、思いを共有する機会として、創立50周年記念事業を行いたく、毎月、同事業の検討準備委員会で内容を協議しています。キヤツチフレーズは「感謝を胸に『共に生きる』これからも」。具体的な内容は本誌でも

福祉法人が地域のさまざま
な課題にもつと積極的に取
り組むことは必然とも感じ

羽学園に入所された障がいのあるお子さんで、現在もグループホームや入所施設、又

という山の頂をめざして、私たちは今何合目にいるのでしよう？これまでバトンを引